

## アジア大都市ネットワーク 21

## 「中小型ジェット旅客機の開発促進」第10回共同事業別会議のまとめ

## ○「中小型ジェット旅客機の開発促進」事業について

アジア大都市ネットワーク21の「中小型ジェット旅客機の開発促進」共同事業の目的は、アジアの航空機産業の発展に寄与し、アジアのアイデンティティをより強固なものにするため、アジアの技術と能力を活かした中小型ジェット旅客機（アジア旅客機）の開発・製造と就航を促進することである。

当共同事業では、2002年10月に「アジア旅客機フォーラム」を開催して以来、毎年国際会議を開催し※、アジアにおける人的交流、情報交流を深めてきた。

※2006年シンガポール、2007年東京、2008年バンガロール、2009年ハノイ、2010年東京で開催

## ○韓国において初の共同事業別会議を開催

このたび、航空機の国際共同開発プログラムにも参加し、著しい成長を遂げている韓国において、第10回共同事業別会議を開催した。

今回の会議には、当共同事業参加都市に加えて、韓国と日本の政府関係者や産業団体などが出席するとともに、航空機メーカー、商社、公的機関関係者等約50名が参加した。

## ○「中小型ジェット旅客機の開発促進」第10回共同事業別会議の概要

〔1日目〕実務担当者会議：冒頭、開催地の慶尚南道庁から、歓迎の挨拶と航空機産業のインフラ整備の推進を目指す道庁の取組が紹介された。続いて、「中小型ジェット旅客機の開発促進」検討委員会の榊達朗副座長による基調講演が行われた。さらに、日韓の政府機関から、それぞれの国の航空産業政策について発表があった。また、日本における国産ジェットMRJ（三菱リージョナルジェット）旅客機開発の進捗状況や、韓国の航空機メーカーから航空機開発の現状について、プレゼンテーションが行われた。また、アジアの研究者間のネットワーク構築に向けた産学官連携の必要性などのテーマに沿って、参加者によりパネルディスカッションを行った。引き続いて、アジアの各都市の専門家から、各々の航空機産業や航空政策・航空輸送の現状が報告された。

会議全体を通じ、アジア各国での航空機関連技術が向上してエアバスやボーイングの重要なパートナーとなっていることが確認され、いくつかの国からは独自のリージョナル機の開発計画を持つことも紹介された。参加者の何れの国も航空機産業育成への意欲は共通であり、それを元に協力関係を構築できればアジア旅客機の実現は難しくないとの共通認識を持った。一方、アジア域での学術交流は既に盛んになりつつあるとの報告もあった。以上のことから、この会議では、アジア旅客機に向けてアジア各国の間で産官学の協力体制をどのように構築するかが重要であることが再認識されるとともに、ANMC21を通じたネットワーク構築のこれまでの活動が支持されるとともに、その更なる強化への期待が示された。

〔2日目〕大韓航空及び韓国航空宇宙産業の工場を視察した。視察参加者と工場スタッフの間で、活発な質疑応答があった。